



ココロとココロ

～届け 私たちの思い～

NPO法人
バングラデシュと
手をつなぐ会

村のより良い地域医療のために

インド国境近くのカラムディ村に、地域医療のサポートに汗を流す7人の若者がいる。彼女らは、現地NGO「シヨングダニ・シヨングスタ」による研修を受けた女性たち。その活動をNPO法人「バングラデシュと手をつなぐ会」が支援している。



NPO法人バングラデシュと手をつなぐ会
〒814-0002 福岡市早良区西新5-4-20
TEL/FAX : 092-844-1369
Email : bangla@nngo.jp
URL : http://bangla.nngo.jp/

地域医療を支える女性たち

バングラデシュの首都ダッカから車で約6時間。インドの国境近くにあるカラムディ村に、この地域でただ一つの母子保健センター(MCH)がある。妊産婦の検診や出産を目的に1995年に設立された施設だ。しかし、村にはほかに医療機関がないため、ここで働く医師はどんな病気でも診なければならぬ。日に50～60人の外来患者を診察し、月に30～40の出産を引き受ける。

さらに、遠くまで病院まで来られない人々のために、カラムディ村外12カ所に設置されたサテライトクリニックを回診。各家庭への巡回検診も実施する。現在、2人の医師と21人のスタッフで、この村とその近郊に暮らす約5万人の健康を守っている。シヨングダニ病院とも呼ばれるMCHの運営は、現地NGOの「シヨングダニ・シヨングスタ」が担い、その活動を



サテライトクリニックで、母親を対象に健康・衛生教育を行うソーシャルワーカー

や母子の相談に乗り、ヘルスコordinatorは村にどのような医療が必要とされているのかを調査し、MCHに伝えて適切な対策をとる。医療関係者と地域住民との調整役だ。

しかしこうした活動をしながら、彼女たちは「限界」を感じていた。それまで、保健医療に関する正式な教育を受けたことがなかったからだ。

顔が見える関係をつくらう

村にとって貴重な人材である彼女たちに、必要な専門知識と技術を学んでもらうことこそ、真の地域医療を実現するために欠かせない。そう考えたラフマンさんたちは、ソーシャルワーカーとヘルスコordinatorを対象に、3～4カ月の研修を企画。研修費の一部にJICA

A基金が充てられた。

「シヨングダニ・シヨングスタはダッカにある研修機関との打ち合わせや研修費用などの事務手続き、研修後の体制などを担当し、私たちは研修費の申請や決算報告の監査などを行いました」。研修プログラムは、妊産婦検診や乳幼児の扱い方といった基礎的なことから、患者への対応や生活向上を目的としたプロジェクトの進め方など多岐にわたる。

中でもユニークだったのは、研修生の1日を「農作業」から始めたことだった。

「バングラデシュの女性たちは農作業をしないのが普通です。でも、村人たちの暮らしを「体」で理解できるように毎日農場に出てもらったのです。彼らの生活を知ること、より良い地域医療につながります」。

研修は、「故郷のために貢献したい」という彼女たちの意欲を大いに触発した。

従来にも増して自ら積極的に村に出向き、村人たちと心から話し合うようになった。バングラデシュの農村の多くは、医療従事者としての資格を持たず、保健医療の知識も少ない。はだしの医者と呼ばれる村人が医療を担わざるを得ないのが現状。そうした中で、研修を受けた彼女



無事に生まれた孫を抱きかかえ、安堵の表情の祖母



MCHの病棟で現地の医師にアドバイスをし、手をつなぐ会のニノ坂保喜代表。普段は福岡市内でクリニックを開いているが、定期的にバングラデシュを訪れている



(左)家庭への巡回検診の際、井戸水の使い方などを妊婦に指導
(右)サテライトクリニックで一般患者の脈拍や血圧を計測

あなたの小さな一歩から始まる国際協力 世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いいただけます。
JICA寄付サイトURL : <http://www.kifu.jica.go.jp/>

たちに寄せられる期待は大きい。

「私たちは20年以上の活動を通して、多くのことを学んできました。それは、人と人とのつながりや、顔の見える関係の大切さです。村人が私たちに心を開いて話ができること、一緒に喜んだり悲しんだりできること、そういう環境をつくること、手をつなぐの本当の意味だと考えています」

シヨングダニ・シヨングスタには今、地域医療を支える「看護学校」や「医療補助者の養成校」を建設する計画があり、土地の購入を終えて手続きを進めているところだ。手をつなぐ会も資金調達や技術指導などのサポートを検討している。2012年のオープンを目指して、手をつなぐ会の手は今まで以上に固いきずなで結ばれている。